

令和元年度事業報告

〔事業活動〕

平成 31 年 3 月 25 日開催の理事会において承認を得た 2019（令和元）年度事業計画に基づき各事業を推進した。その概要は以下のとおりである。

1 国際相互理解の促進

(1) 講演会、シンポジウム等の開催

ア 国際理解講演会等の開催

会員をはじめ道民の国際理解を促進するため、講演会を開催した。

6月25日（火） 札幌市 京王プラザホテル 参加者約100名

「北海道・ヘルシンキ直行便就航～ゲートウェイとしての北海道を考える」

フィンランド航空日本支社長 永原範昭 氏

イ 北方圏講座の開催

北方圏諸国の産業経済や生活文化等に関する蓄積を学び、地域づくりについての情報交換を図るため他団体と連携し開催した。

- ① 第1回 4月26日（金） アスティ45ビル 13階「(株) 開発工営社会議室」
参加者約50名

「カロリンスカ研究所と北大先端生命科学研究院の交流について」

北海道大学先端生命科学研究院 教授 金城 政孝 氏

共催／北海道スウェーデン協会

- ② 第2回 5月28日（火） 札幌プリンスホテル国際館パミール3階「大沼」
参加者約60名

「スウェーデン・セミナー」

・代理大使によるスピーチ

スウェーデン公使 ヴィクトリア・フォシュルンド＝ベラス 氏

・「貧富の差と国の福祉の考え方～スウェーデンはどうか？ほかの国は？～」

北海道スウェーデン協会事務局長 目黒 聖直 氏

・「" Beyond2018" 日本とスウェーデンの150年から考える～次に向けての提言」

東海大学名誉教授 川崎 和彦 氏

共催／(財) スウェーデン交流センター

- ③ 第3回 12月17日（火） 札幌市 北洋銀行セミナーホール 参加者約130名
「つながる北海道とフィンランド」

キースピーチ 駐日フィンランド 大使 ペッカ・オルパナ氏

パネルディスカッション

井口 光雄氏（北海道フィンランド協会名誉顧問）

白石 薫氏（日本貿易振興機構地域総括センター長）

伊藤 昭男氏（北海商科大学教授、北海道地域観光学会会長）

木本 晃氏（北海道 21 世紀総合研究所特任審議役）

共催／北海道、北海道フィンランド協会

※ 2月26日（水）に開催予定の第4回北方圏講座「北海道とロシア各地域との交流発展」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

ウ 北太平洋地域研究事業（国際セミナー等の開催）

北東アジアの政治経済・外交に関係する重要テーマについて内外の研究者等を招き、セミナーを開催した。

① 国際情勢シンポジウム・セミナー

6月14日（金） 北海道大学学術交流会館小講堂 参加者約80名

「日ロ平和条約の意味～日ロ関係の未来を考える」

・「なぜ交渉が進まないのか：日本の対ロシア外交を考える」

岩下 明裕 氏（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

・「北東アジアの安全保障から見た日ロ関係と領土問題」

兵頭 慎治 氏（防衛研究所地域研究部長）

共催／NPO 法人ロシア極東研、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

※ 3月26日（木）に開催予定の国際情勢シンポジウム「北東アジア情勢～日本と韓国」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

(2) 国際関係情報の収集・提供

ア 調査研究・資料収集事業

対外経済交流関係の各種事業に参画して調査・情報収集を行い、ホームページや「Hoppoken」誌等において成果を発表した。

① 新千歳—ヘルシンキ線直行便就航に係るフィンランド現地調査

フィンランド航空によるヘルシンキ—新千歳直行便就航の計画を受け、北海道と欧州間のインバウンド及びアウトバウンド旅客客増大や交流拡大の可能性を探るため、フィンランド航空をはじめ関係機関を訪問し現地調査を行った。また、2019年が日芬外交関係樹立100周年ということから、Finnish Japanese Society（芬日協会）役員等と、北海道とフィンランドとの交流について意見交換を行った。その他、在フィンランド日本大使館、イナリ・サーミ博物館（SIIDA）、在住邦人キーパーソンなどを取材した。

② ロシア連邦シベリア地方との新分野経済交流可能性調査

経済産業省北海道経済産業局からの委託を受け、シベリア地域への北海道企業進出、経済交流の可能性を検討するため、シベリア連邦管区のノヴォシビルスク市において、「寒冷地技術分野」・「IT分野」に続く有望な経済交流新分野として、「健康分野」、「環境分野」、「食分野」の3分野を新たなターゲット候補として設定し、具体的な現地の事業環境やニーズ等の調査・分析を行い、その結果を、道内企業等に広く発信した。

イ 国際情報ネットワーク事業

インターネットを活用して国際交流等の情報を集約・蓄積し、道民などに広く提供した。特に、Facebookでハイエックなどが主催する事業の実施予定を告知するとともに、ホームページに開設した「HIECCトピックス」コーナーなどで事業実施報告をタイムリーに掲載した。

ホームページアクセス数 4月～3月 月平均 3,100件

ウ 年報・HOPPOKEN 特別号発行

2019年度からHOPPOKEN別冊を併載し、事業報告等記事などを掲載した。

8月に発行し、会員や関係団体、市町村等へ配付した。

エ 「Hoppoken(北方圏)」誌の発行

会員をはじめとした道民に、国際理解の促進に資する情報や、国際交流等の取り組みに関する情報提供を目的に、年3回（うち1回別冊）、各1,200部発行した。

① 186号 9月発行

- ・特集－「循環経済先進国フィンランドの挑戦」

国家レベルで循環経済に取り組むフィンランドに焦点を当て、日本の循環型社会との違いなどを紹介。

- ・その他－フィンランドと北海道－これまでとこれからと題し、様々な分野の交流の歴史や、欧州直行便就航により拡大が期待される新たな交流の可能性についての調査記事などを掲載。

② 187号 3月発行

- ・特集－「フランスから見える多文化共生のあり方」

多文化共生先進地といえるフランスが直面するナショナリズムの高揚などの問題について紹介。

- ・その他－「共生社会の実現に向けて－外国人がもたらすダイナミズム」と題し、本道における外国人の活用・共生を紹介する記事などを掲載。

③ 別冊（年報に併載） 8月発行

- ・ハイエック国際理解講演会「北海道・ヘルシンキ直行便就航～ゲートウェイとしての北海道を考える」概要やハイエック主催事業「日ロセミナー2019～日ロ平和条約の意味－日ロ関係の未来を考える」報告記事などを掲載。

オ 国際協力情報収集提供事業

道内の国際協力活動などを紹介するため、国際協力情報紙「であい」を2回発行し、ホームページで公開した。

(3) 海外派遣研修

ア 海外派遣事業

2月16日～23日の日程でシンガポール・ベトナムに道内の企業・団体等に所属する6名の青年を派遣・実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

イ 高校生・世界の架け橋養成事業

① 高校生・アジアの架け橋養成事業

世界の様々な人々と協働できる国際感覚を持った人材を育成するため、将来の北海道を担う高校生10名を開発途上国に派遣した。

派遣期間：7月28日（日）～8月3日（土） 派遣先：カンボジア王国

参加者：高校生10名

その他：事前研修2回、事後研修2回、報告会4回（道内高校）

② ユース・エコ・フォーラム2019

環境問題をテーマに北方圏諸国の若者と意見交換等を行うスキルを持った人材を育成するため、道内の高校生2名をユース・エコ・フォーラム2019に派遣した。

派遣期間：10月6日（日）～12日（土）

派遣先：アクレイリ市（アイスランド共和国）

参加者：高校生2名

その他：事前研修3回、事後研修1回、

（報告会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

③ 済州国際青少年フォーラム 2019

韓国・済州特別自治道と交流を深め、相互理解を図るため、同道が主催する青少年フォーラムに、道内の高校生3名を派遣した。

派遣期間：10月31日（木）～11月4日（月）

派遣先：韓国・済州特別自治道

参加者：高校生3名

その他：事前研修4回、事後研修3回、

（報告会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

(4) 多文化共生の推進

ア 多文化共生ネットワーク連携推進協議会との連携

道内の国際交流団体間のネットワーク構築に取り組むとともに、協働して多文化共生の実現に資する事業を実施した。

① 多文化共生啓発事業

北海道の少子高齢化が全国を上回るスピードで進む中、外国人も地域社会を構成する一員として、地域の発展・活性化に資することや災害時に外国人が困ること、新たな外国人材の受入れ制度に関する理解促進を目的に講演会を開催した。

6月14日（金） 千歳市

多文化共生講演会 「外国人も暮らしやすい地域づくり」

講師：（一財）ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎 氏

参加者：20人（協力：千歳国際交流協会）

② 多文化共生コーディネーター研修会

多文化共生社会の実現を目指すため、道内各地域で活動する様々な分野の事業担当者（コーディネーター）を対象に研修会を行った。

10月2日（水） 旭川市 64人（協力：北海道国際交流センター）

イ 多文化共生の各種取組

道内各地域における外国人との共生に向けた環境づくりを一層進めるため、各種事業を実施した。

① 外国人観光客避難誘導訓練

北海道が実施した「北海道原子力防災訓練」において、積丹町の外国人宿泊客を、事故発生後、速やかに緊急時準備区域外へ退避させる訓練に参加・協力した。

11月17日（日） 積丹町 参加者（外国人）22人

② 「北海道災害支援多言語サポーター」募集説明会

災害時に外国人を支援する「北海道災害支援多言語サポーター」の募集説明会を旭川市で開催し、サポーターに期待される活動や実際の活動を体験するロールプレイを行った。

11月9日（土） 函館市 参加者6人（共催：北海道国際交流センター）

③ 「防災教室 in 北海道インターナショナルスクール」

石狩振興局と共催し、北海道インターナショナルスクールに通う児童・生徒、父兄に対し、災害時における行動についてのレクチャーや避難所での生活体験などを実施した。

12月12日（木） 札幌市 参加者約150人（共催：石狩振興局）

④ 「災害時多言語情報集積・発信基盤強化促進事業」（クレア助成事業）

（一財）自治体国際化協会（クレア）の助成金を活用し、災害時における情報発信を強化し、ハイエック及び北海道外国人相談センターのホームページ上において、

在道の外国人が北海道庁及び各在道外国公館から発信される情報を一か所で得ることができるシステムを構築した。

⑤ 世界の料理教室

料理を通じて諸外国の生活・文化について学び交流を深めるため、関係機関と共催のうえ実施した。

10月4日（金） 旭川市 参加者 18人

（共催：日ロ文化協会「リャビーナ」の会）

⑥ 国際交流ボランティア登録事業

現登録ボランティア数 36人（昨年度36人）

⑦ 北海道災害支援多言語サポーター登録事業

現登録サポーター数 64人（昨年度51人）

⑧ 留学生支援物品等登録事業

今年度登録数 11件（昨年度3件）

ウ 北海道多文化共生アワード（表彰事業）

本道在住の外国人と道民がともに地域の発展や活性化に貢献できる社会実現のため、人材育成、居住環境、防災、教育、地域づくりなどさまざまな分野において顕著な取組を行っている団体を表彰した。

表彰団体（優秀賞） 日本語ボランティア「窓」（札幌市）～ 日本語教育支援
北海道海浜美化をすすめる会（札幌市）～ 地域活動への
参画支援

表彰式 1月21日（火） 札幌プリンスホテル

エ 北海道外国人相談センターの運営

北海道庁からの委託を受け、8月29日に「北海道外国人相談センター」を所内に開設し、道内に滞在する外国人等のさまざまな相談に対応した。

体制： 常勤4名～センター長、課長、主任相談員・相談員（英語）
シフト8名～多言語相談員（中・韓・ベトナム・タガログ語）

対応言語： 電話通訳システムを活用し、11カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タイ語、インドネシア語、タガログ語、ロシア語、ミャンマー語）に対応

開所時間： 平日（午前）9：00～12：00 （午後）13：00～16：00

ホームページ： <http://hiecc.or.jp/soudan>

Facebook： <http://www.facebook.com/hiecc.support>

相談者数： 443人

相談件数： 542件

主な相談者の国籍

国籍	人数	国籍	人数
中国	45	ベトナム	42
台湾	7	アフリカ諸国	3
韓国	7	欧米諸国（カナダ、アメリカ等）	91
フィリピン	24	日本	81
インドネシア	13	その他（香港、ミャンマー等）	55
タイ	4	不明	71

主な相談内容

分 野	件数	分 野	件数
入管手続（更新、切替等）	122	住宅	8
雇用・労働	83	身分関係・結婚等	13
社会保険・医療	69	防災	1
年金・税金	54	子どもの教育	13
出産・子育て	12	その他	167

移動相談会の開催 道内各振興局で移動相談会を全 12 回開催した。

- | | |
|-------------------|-----------|
| ① 上川総合振興局（旭川市） | 10月31日（木） |
| ② 渡島総合・桧山振興局（函館市） | 11月10日（日） |
| ③ 胆振総合振興局（室蘭市） | 11月27日（水） |
| ④ 宗谷総合振興局（稚内市） | 12月7日（土） |
| ⑤ 後志総合振興局（倶知安町） | 12月10日（火） |
| ⑥ 空知総合振興局（滝川市） | 1月18日（土） |
| ⑦ 十勝総合振興局（帯広市） | 1月25日（土） |
| ⑧ 釧路総合振興局（釧路市） | 1月26日（日） |
| ⑨ オホーツク総合振興局（北見市） | 2月1日（土） |
| ⑩ オホーツク総合振興局（紋別市） | 2月2日（日） |
| ⑪ 留萌振興局（留萌市） | 2月15日（土） |
| ⑫ 日高振興局（浦河町） | 2月22日（土） |

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった相談会 根室市、中標津町

2 国際交流の推進

(1) 諸外国との各種交流の実施

ア 日中青年交流事業

中国黒竜江省との間で締結した「黒竜江省と北海道青年交流協定」（2008年）に基づき、昨年度に引き続き「音楽」をテーマに実施。哈爾濱音楽学院と札幌大谷大学の協力を得て、北海道胆振東部地震の被災地の一つである安平町を訪問して「日中青年ふれあいコンサート」を開催した。

受入期間：12月11日（水）～13日（金）

訪 問 団：黒竜江省人民政府職員3名、哈爾濱音楽学院教師・学生12名

「日中青年ふれあいコンサート」

12月12日（木）17:00～18:30 早来町民センター

イ 日韓交流事業

北海道と韓国との特色ある交流・協力を創出するため、慶尚南道体育会との協定に基づく高齢化社会に対応したローカルスポーツ「ミニバレー」による交流を、本年は慶尚南道よりミニバレー訪問団を受け入れ、道内の団体と交流を行った。

受入期間：7月11日（木）～13日（土）

訪 問 団：慶尚南道体育会2名、慶尚南道ミニバレー連盟14名

交流場所：札幌市、旭川市

協力団体：北海道ミニバレー協会、札幌ミニバレー協会、旭川ミニバレー協会

ウ 韓国青年訪日団受入事業

(公財) 日韓文化交流基金より依頼を受け、同基金が企画した受入事業において、北海道内でのホームステイの機会を提供し、北海道への理解を深めてもらうとともに、ホストファミリーや学生同士の交流を実施した。

受入期間：7月16日(火)～18日(木)

訪問団：36名(うち学生34名)

エ 北海道外国訪問団受入事業

南米からの北海道出身移住者子弟の訪問団を受け入れ、「父祖の地・北海道」について理解を深め、一層の友好親善に資するため、本道関係者との交流や道内企業の視察等を実施した。

受入期間：1月29日(水)～2月5日(水)

訪問団：アルゼンチン青年交流団 6名

オ ベトナムとの人材交流促進事業

北海道庁と連携し、北海道とベトナムとの人材交流を含めた経済交流の促進に関する事業を実施した。

① ベトナムとの経済人材交流促進会議への参画

道が設置した同会議に構成員として参画した(9月11日)。

② ベトナムでのプロモーション

ホーチミン市で開催される「北海道・ベトナム経済人材セミナー」及び「ジャパン・ベトナムフェスティバル」に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

(2) 留学生と道民との交流

ア 外国人留学生国際交流支援事業

道内大学への外国人留学生受入れ促進を支援するため、外国人私費留学生に修学助成を行うとともに、助成金受給者を「留学生サポーター」として登録し、地域の交流事業への参加等を促進した。(修学助成 月額1万5千円、50名)

イ 外国人留学生受入促進事業

外国人留学生の受入れを促進するため、海外の関係機関や大学・学生等に対し、道内大学のプロモーションを行った。

① プロモーションサイトの運営 (<http://study-hokkaido.com>)

② 留学ガイドブックの作成、配付

③ 日本留学フェア(日本学生支援機構主催)への参加

インドネシアにおいて、学生等へのプロモーション及び大学関係資料を配付した。

・11月23日(土) スラバヤ会場 ブース来場者約240名

・11月24日(日) ジャカルタ会場 ブース来場者約480名

④ 帰国者留学生向けメールマガジンの発行

帰国した外国人留学生に対し、北海道の今の様子や就職など各種情報を提供するメールマガジン「留学生サポーターだより」を発行し、本道への理解促進を図った(年2回)。

ウ 留学生地域交流の実施

外国人留学生の北海道に対する理解の促進を図り、SNS等により北海道の魅力を発信してもらうとともに地域住民との交流を推進するため、地域イベントへの参加や交流会を開催した。

「北海道留学生ふれあい交流 in とち」
 日 時：8月12日（月）～14日（水）
 場 所：大樹町、更別村、帯広市
 参加者：留学生21名（21カ国）

(3) 海外移住者への支援

ア 移住者支援事業

- ① 北海道出身移住者などで組織する道人会等への活動支援・助成
 ブラジル北海道文化福祉協会、在亜北海道人会、
 パラグアイ北海道人会連合会、サハリン道人会、
 北海道海外移住家族会
- ② 北海道南米移住記念式典への参加
 北海道人ブラジル移住100周年、パラグアイ移住80周年の両記念式典に参列する
 ため、北海道及び北海道議会等の慶祝団とともに両国を訪問した。
 ・北海道人ブラジル移住100周年記念式典 8月24日（土）サンパウロ市
 ・北海道人パラグアイ移住80周年記念式典 8月21日（水）アスンシオン市
- ③ 「北海道観光・物産紹介展」支援会への参画
 北海道人ブラジル移住100周年、ブラジル北海道文化福祉協会創立80周年を迎え、
 移住者をはじめブラジルに暮らす北海道と所縁のある方々などに郷土北海道を紹介
 する「北海道観光・物産紹介展」が現地にて開催されたことから、本事業に関する支
 援会に当センターも事務局として参画した。
 ・北海道観光・物産紹介展 9月14日（土）～15日（日）
 ・運営会議（2回） 5月14日（火）、10月28日（月）

イ 移住者子弟留学生受入事業

南米圏交流を促進するため、北海道出身移住者の子弟を留学生として受け入れ、修
 学を支援した。

受 入：ブラジル 1名
 修学先：北海道科学大学工学部情報工学科

(4) 各種交流事業への助成国際交流助成事業

世界各地域との交流を促進し、北海道の生活文化や産業経済の発展に寄与するた
 め、道内の交流団体等が実施する各種交流事業に助成した。

令和元年度補助実績

助成対象事業名	主催者	助成額（千円）
日本フィンランド国交樹立100年記念展示	北海道フィンランド協会	200
北見市・エリザベス市姉妹都市提携50周年記念事業	同実行委員会	100
モンゴル ナードム祭 2019	留学生フレンドシップ	200
日米ユースホームステイ&文化交流事業	(特活) ワールドユースジャパン	100
北海道・黒竜江省国際交流美術展 2019	北海道文化団体協議会	200
ジュニアジャズ国際交流事業	(公財) 札幌市芸術文化財団	100
「アイノラのつどい」タンペレ・フィル団員による マスタークラス&コンサート	日本シベリウス協会 北海道支部	100
高齢者の医療・福祉は国境を越えて ～ 大野精七初代会長生誕135周年記念シンポジウム～	北海道日独協会	100
計 8事業		1,100

(5) 地域、諸団体との連携

ア 地域連携ネットワーク事業

各地域や交流団体間の連携を促進するため、多文化共生や国際交流活動、外国人の受入れ状況等についての情報交換会を開催した。

多文化共生地域懇談会

11月 1日 (金)	江差町	参加者	13人
12月 6日 (金)	稚内市	参加者	12人
12月 19日 (木)	浦河町	参加者	16人

イ 外国公館交流促進事業

在道の総領事館、領事館、通商事務所、名誉領事館等と連携し、地域の国際化を推進するための取組を実施した。

① 在北海道外国公館・通商事務所等協議会 総会

7月 5日 (金) 札幌市 札幌プリンスホテル 国際館パミール

② 学校訪問事業

道内中学校・高等学校からの要請に基づき、在道外国公館の総領事等が学校を訪問し、生活・文化の紹介や交流事業を実施するなど、相互理解を深めた。

7月 18日 (金) 苫小牧市立緑陵中学校

8月 20日 (火) 苫小牧南高等学校

8月 26日 (月) 江別市江別第一中学校

9月 5日 (木) 苫小牧中央高等学校

12月 12日 (木) 札幌市立幌北小学校 ひまわり分校

③ インターナショナルウィーク

在北海道外国公館・通商事務所等協議会を構成する外国公館及び名誉領事館等が連携し、各国の文化や歴史などについて、パネルや映像資料による展示・PR展、伝統舞踊や音楽演奏などの文化紹介パフォーマンスを行うとともに、道民の皆さんに外国公館を身近に感じてもらうため、各国の総領事などとの交流機会を設定し、異文化交流や国際理解の促進を図った。

日 時：11月 20日 (水) ～ 22日 (金)

場 所：札幌駅前通地下歩行空間

来場者数：約 11,000人 (延べ人数)

④ 新年交礼会

協議会の構成員である各国外国公館の総領事や名誉領事はもとより、北海道、札幌市をはじめとする官公庁、道内経済界や大学、報道機関、さらには国際交流・協力団体などの参加をいただき、「在北海道外国公館・通商事務所等協議会」主催による新年交礼会を開催した。

1月 21日 (火) 札幌プリンスホテル 国際館パミール 参加者 74名

・主催者挨拶 在札幌ニュージーランド名誉領事館名誉領事 (協議会副会長)

・来賓挨拶 北海道副知事、札幌市副市長

・新年の乾杯 北海道経済産業局長

ウ 他団体との連携による交流事業

① カルチャーナイト

施設改修工事のため、事業を中止した。

② 全国中国語スピーチコンテスト北海道大会

10月 13日 (日) 札幌市かでの2・7 北海道日中友好協会との共催

- ③ 国際ユースフォーラム札幌大会
道内の高校生や大学生と日米交流関係者により、「The Civilian Society をどう築くか」をテーマにワークショップ形式でグループディスカッションを行った。
11月3日(日) 京王プラザホテル 北海道日米協会との共催 参加者 80名
- ④ インターナショナルナイト
世界の青年の国際的なふれあいの場とするため、留学生と日本人学生等によるディスカッションや交流会を開催した。
12月15日(日) 札幌市かでの2・7 北海道青少年科学文化財団との共催
参加者 日本人 286人、外国人 26カ国 66人
- ⑤ 国際交流「DAY」事業
北海道と姉妹・友好提携地域とのより一層の交流拡大を図るため、北海道と共催して、各提携記念日等にそれぞれの地域の文化紹介イベントを開催した。
- | | |
|----------------|------------------|
| アメリカ・ハワイ州 | 5月9日(木)～14日(火) |
| 韓国・慶尚南道 | 6月6日(木)～7日(金) |
| カナダ・アルバータ州 | 10月13日(日) |
| 韓国・ソウル特別市 | 11月20日(水) |
| ロシア・サハリン州 | 11月30日(土) |
| 韓国・釜山広域市 | 12月12日(木)～13日(金) |
| 韓国・済州特別自治道 | 12月17日(火) |
| アメリカ・マサチューセッツ州 | 2月6日(木)～7日(金) |
| タイ・チェンマイ県 | 2月25日(火)～26日(水) |
- ⑥ 国際交流定例講演会
5回開催 5月16日(木)、7月8日(月)、9月9日(月)、11月13日(水)、
1月14日(火) 北海道国際女性協会との共催
- ⑦ 国際交流 in 積丹町
積丹町教育委員会からの依頼を受け、北大留学生や北海道海外技術研修員等の協力を募り同町内小中学校で開催された国際交流プログラムを支援した。
11月16日(土) 積丹町内各小中学校(小学校4校、中学校1校)
参加児童・生徒 94人、外国人 22人
- ⑧ 働き方改革セミナー
外国人材の受け入れ拡大が見込まれる中、道内企業の人材採用者を対象として外国人材の採用をテーマとしたセミナーやベトナム人留学生との交流会を開催した。
8月1日(木) 日本電信電話ユーザ協会との共催
参加者 65名

3 国際協力の推進

(1) 開発途上国向けの JICA 研修事業への参画

JICA 北海道国際センター（札幌）が実施する研修事業の一部を受託し、研修実施機関とのカリキュラムの調整や研修のコーディネートを行った。

期 間	研修コース名	人数
5 月 7 日～ 6 月 15 日	課題別（道路維持管理（E））	7
6 月 1 日～ 8 月 10 日	課題別（上水道施設技術総合（B））	9
9 月 14 日～10 月 12 日	課題別（道路インフラマネジメントシステム）	8
10 月 28 日～11 月 8 日	国別（マリ国コミュニティ開発計画策定能力強化）	9

(2) 海外からの研修員の受入

南米圏の北海道出身移住者の子弟を技術研修員として受け入れ、技術研修を行った。

受 入：2 名（パラグアイ 1、アルゼンチン 1）

研修先：北海学園大学法学部

学校法人宮島学園 宮島学園北海道調理師専門学校

4 ハイエック後援事業

	実施日	事業名	主催団体
1	5/23、25	日本・フィンランド修好 100 周年記念 フィンランド男性合唱団「ESMILA」北海道公演	北海道フィンランド協会
2	5/25	NIHU/URBJ セミナー 北海道でボーダー（境界）を考える	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
3	6/9、11、 13、17	国際親善交流特別演奏会 「日本・ルーマニア文化交流演奏会」	日本音楽文化交流協会
4	6/29	第 5 回北欧に学ぶ創造性教育オンラインバージョン	Office Kawasaki
5	9/5	第 5 回「北海道日中友好中国会ゴルフ大会」	北海道中国会
6	11/2～4	第 39 回 NHK 杯カーリング選手権大会	NHK 杯カーリング選手権大会実行委員会
7	11/8	シンポジウム 「中央アジア諸国とのビジネスの可能性」	(独) 国際協力機構北海道センター
8	11/8	地域国際化ステップアップセミナー in 札幌	(一財) 自治体国際化協会
9	11/27～29	第 35 回寒地技術シンポジウム	(一社) 北海道開発技術センター
10	2/1	アジアと北海道のつきあい方 Part12	NPO 法人日本自治 ACADEMY
11	2/6～11	第 61 回旭川冬まつり	旭川冬まつり実行委員会
12	2/9	第 30 回おおたき国際スキーマラソン	おおたき国際スキーマラソン実行委員会
13	2/16～21	第 35 回北方圏国際シンポジウム	北方圏国際シンポジウム実行委員会
14	2/22～23	第 32 回昭和神山国際雪合戦	昭和神山国際雪合戦実行委員会
15	3/10	働き方改革セミナー	日本電信電話ユーザ協会

〔管理部門〕

1 会員の状況

平成31年4月から令和2年3月までの間においては、新規の加入が18件（個人会員9件、法人会員9件）、退会が22件（個人会員13件、法人等会員9件）あり、会員数は4減となった。

区 分		平成31年度 当初会員数	令和元年度増減			令和2年3月末 現在会員数
			入会数	退会数	差引増減	
個人 会員	一般会員	108	4	11	△7	101
	学生等会員	2	1	0	1	3
	主婦(夫)等会員	2	0	0	0	2
	シニア会員	28	4	2	2	30
	特別会員	4	0	0	0	4
	個人会員計	144	9	13	△4	140
法人等会員		458	9	9	0	458
合 計		602	18	22	△4	598

2 会議の開催

令和元年度の開催状況は次のとおり。

(1) 理事会

ア 第1回理事会

令和元年5月23日(木) 13:30～ ホテル札幌ガーデンパレス

出席 理事総数28名のうち17名、監事2名のうち2名

内容 平成30年度事業報告を承認

平成30年度決算を承認

令和元年度事業計画の一部変更及び公益法人の変更認定申請を承認

通常総会の招集を議決

イ 第2回理事会

令和元年6月25日(火) 16:00～ 京王プラザホテル札幌

出席 理事総数28名のうち17名、監事2名のうち2名

内容 副会長の選定

新副会長 辻 泰 弘 北海道貿易物産振興会理事長

ウ 第3回理事会

新型コロナウイルス感染症の影響により決議の省略（みなし決議）の形式により実施した。

内容 令和2年度事業計画及び予算を承認
予算の補正に関する専決処分を承認
顧問の委嘱を承認
新顧問 後藤 貞二 北海道開発局長

(2) 総会

令和元年度通常総会

令和元年6月25日(火) 15:00～ 京王プラザホテル札幌

出席 会員総数594のうち384（出席51、委任状出席333）

内容 平成30年度決算を承認
平成30年度事業報告を報告
令和元年度事業計画及び予算の理事会決定を報告
理事の選任

新理事	落合 周次	北海道パラグアイ協会会長
	黒田 秀徳	北海道観光振興機構専務理事
	柴田 達夫	北海道町村会常務理事
	末次 省三	毎日新聞社北海道支社長
	辻 泰 弘	北海道貿易物産振興会理事長
	寺内 達郎	北海道テレビ放送代表取締役社長
	橋本 道政	北海道文化団体協議会会長

附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないため、作成しない。